

令和2年 第3回 伊丹市教育委員会 臨時会 会議録

1. 日 時 令和2年(2020年)8月21日(金)午後3時00分～午後3時20分

2. 場 所 伊丹市立総合教育センター 2階 講座室

3. 出席者 <教育委員会>

教育長 木下 誠 教育委員 瀧川 光治

教育委員 江原 礼子 教育委員 川崎かおり

教育委員 太田 洋子

<事務局>

教育総務部長 馬場 一憲 教育政策課長 石田 亮一

学校教育部長 早崎 潤 教育政策課主任 中谷 克也

学校教育部副参事兼学校指導課長 廣重久美子 教育政策課主任 寺内 みこ

4. 欠席者 なし

5. 傍聴人 1人

6. 議 事

(1) 開会宣言 木下教育長(午後3時00分)

(2) 日程報告 木下教育長より次のとおり会議を進める旨の発議があり、全委員はこれを了承。

日程第 1 議案第42号の審議

日程第 2 議案第43号の審議

(3) 議案第42号の審議(日程第1)

木下教育長より「議案第42号 平成31年度(2019年度)伊丹の教育<実施報告と点検評価>について」を議題とする旨の発議の後、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、教育委員会の事務の管理及び執行状況についての点検・評価内容を公表するため、「平成31年度(2019年度)伊丹の教育<実施報告と点検評価>」を作成しようとするものです。」との説明がなされ、教育総務部長より補足説明があり、全委員一致で、「議案第42号」を可決。

(4) 議案第43号の審議(日程第2)

木下教育長より「議案第43号 「ことば科」の終了について」を議題とする旨の発議の後、「教育特例校としての「ことば科」を終了し、総合的な学習の時間において、今

求められている資質の育成をねらいとした教育課程を編成しようとするものです。」との説明がなされ、学校教育部長より補足説明があり、質疑応答の後、全委員一致で、「議案第43号」を可決。

質疑応答

太田委員 ことば科は、15年ほど前に、学力調査で子どもたちの書く力が弱いということや無回答率が全国平均と比べて高いということが分かり、その対応策として取組を始めたが、一定の成果はあったと思うが、「伊丹の教育」で浅野評価委員が述べられているとおり、まだ「小学校の学力テストの正答率には課題がある」状況である。部長の説明の中で来年度からのことをおっしゃっていたが、どのような指導をするか、どのような点検をするかということをきっちり考えていく必要があると思う。特に国語力は、国語の時間だけでなく全ての教科や総合的な学習の中で培うものであり、そのあたりのことは学校指導課の本務だと思うので、力を入れて考えていただきたい。

学校教育部長 太田委員ご案内のとおり、平成17年度の学習到達度調査で記述式の問題で無回答が多い、資料を読み解いて説明する力が弱いという課題が見られ、その対応策として始めたと聞いている。書く力を含めた「ことばの力」の重要性は、新学習指導要領においても示されていることから、本市の現状をしっかりと分析し、これまで積み重ねてきたことば科のカリキュラムを全ての教科で有効活用していきたいと考えている。

川崎委員 以前から国語力や読解力の育成に重点をおいた教育が大事だと発言してきた。今回「伊丹の教育」で山内評価委員も「課題に対する対応には具体策が必要である」と述べられており、私もその通りだと思う。子どもたちの読解力や書く力を伸ばすためには、作文でも詩でも感想文でも何でもいいので「書く」ということに取り組ませていただきたい。そして、先生方はお忙しいと思うが、子どもたちが書いたものを必ず分かりやすい形で添削していただけたらと思う。

木下教育長 全国学力調査の結果等から国語力や記述力に課題があると言われている。これまではことば科を通して取り組んできたが、おふたりの委員がおっしゃったように今後の具体策が必要だと思う。今、事務局で考えていることを情報提供していただきたい。

学校指導課長 本市の児童生徒は、複数の情報から必要なことを取り出したり、そこに情報を加えたり、分析して必要なものを生み出したりという力

がまだまだだと感じている。この力を伸ばすためには、今後国語の授業を抜本的に改善していく必要があると考えている。例えば、知見を有する方による指導助言や、指導主事によるこまめな訪問などを通して授業改善を図っていきたい。

江原委員 授業改善の話が出たので、先ほど川崎委員もおっしゃったが、指導したことがそのままになるのではなく、指導と評価の一体化を目指して授業改善を図っていただきたい。

木下教育長 授業改善は今年度から取り組む予定か。

学校指導課長 今は授業公開が難しい状況であるため、校内研修を行い、そこへ指導主事が出向いて指導助言するという形で取り組んでいる。また、新学習指導要領の実施に伴って変更された教科書への理解を積み重ねているところでもある。

太田委員 できれば「国語力向上プラン」というような形で、A4の1枚もので大事なことを分かりやすくまとめていただいたら、私たちも学校訪問の際に説明したり支援したりできると思う。

川崎委員 道徳が教科化されたばかりの時期に校内研修で道徳の授業を見せていただいた。まだ先生も道徳の授業に慣れていないせいもあると思うが、まるで国語の授業を見ているような感覚になった。教育委員の立場からも学校に伝える手段として、感想を書かせていただけるようなものがあれば嬉しい。ご検討いただきたい。

木下教育長 最近の研究発表会では、研究会の後すぐに全体会をするのではなく、分科会を開いて授業を振り返って意見交換をされている学校もある。授業者に対する意見は、どちらかというと辛口なものが多いと思って見ている。

学校指導課長 分科会では、授業者を褒めるだけでなく、「もっとこうしたらよかった」というような意見を出し合っている。研究発表会では資料と一緒にアンケート用紙をお配りしており、様々な方の意見を収集しようとしている。また、会の後、校長室に研究担当がいることも多いので、見かけられたら声をかけていただけたらありがたいと思う。

(5) 閉会宣言

木下教育長（午後3時20分）

上記のとおり会議の要旨を記録し、ここに署名押印する。

伊丹市教育長 木下 誠

伊丹市教育委員会委員 江原 礼子